

首里城につながる

～浦添の歴史と文化～

古琉球を味わえる 周遊ルート

浦添グスク・伊祖グスクを中心とした、古琉球の時代を体感できる新たな観光周遊ルートを設定します。埋もれていた浦添の歴史的魅力を引き出し、またグルメも含めた「浦添をまるごと楽しむ」コースをめざします。



▲伊祖グスクも新たなスポットに

琉球歴史アニメ「察度」を公開

14世紀、浦添グスクを舞台にした短編アニメ「察度」のウェブ公開を予定しています。海外貿易の扉を開いた浦添の王・察度が主人公。古琉球時代のアニメ化は初の試みで、全盛期の浦添グスクも鮮やかによみがえります。



※イラストはイメージです。
▲浦添に君臨した察度王

浦添の歴史と文化を知る 電子紙芝居

浦添の歴史的人物と民話を紹介する電子紙芝居を制作、ウェブ公開します。かわいく親しみやすいイラストで、子どもから大人まで楽しめる内容です。地元の歴史・文化を学ぶ教材として使えるうえ、海外向けに多言語字幕も予定していますので観光PRとしても最適です。



▲察度王に伝えられた天女の伝説

上記の事業は、今後実施を予定しています。

プロジェクトリーダーコメント

痛ましい首里城火災にともない、浦添市でもいち早く応援プロジェクトが立ち上がりました。本プロジェクトは建物そのものの復興支援はもちろんですが、貴重な文化財の保護や琉球の歴史・文化を知ること「復興支援」として重要と考えています。今後も浦添ならではの支援を行っていきたいと思います。

てだこのまち首里城応援プロジェクトリーダー
浦添市立図書館 上里 隆史 館長

ロゴマークコンセプト



鳳凰は浦添に代表される古琉球王権のシンボルであり、龍は正殿の龍柱にも使われているように、首里城のシンボルです。浦添と首里がともに手をとり合い、首里城を復興していく姿をイメージしています。



首里城への思い、心ひとつに

浦添中学校生徒会からの提案をきっかけに、市内全16小中学校で首里城再建のために募金活動が行われました。首里城の一日でも早い再建を願い、火災があった日の翌日11月1日から企画されたこの取り組みは、生徒たちで集金方法やPR方法を考え、各学校の協力のもと、合計694,225円の募金が集まりました。また、県立陽明高等学校、県立浦添商業高等学校からも寄付がありました。



▲募金活動の中心となった浦添中学校生徒会のみなさん(当時)

生徒の思いつなげる

浦添中学校 内田 篤 校長

首里城火災の翌日、当校の生徒会から「募金活動に取り組みたい」という相談がありました。また、生徒会で検討したアイデアとして「できることをできる範囲で」という考えを基本に取り組むことになりました。市立小中学校16校の児童会・生徒会が「首里城」への想いを胸に心をつなげ、生徒自らが考えて行動してくれたことが本当に素晴らしいと思います。



てだこのまち 首里城応援プロジェクト

沖縄の歴史と文化、また、戦後復興の象徴である首里城の消失は、浦添市でも大きな衝撃と悲しみを受けた。首里城復興は今後10年近い長きに渡る支援が必要と言われる今、これまでの応援プロジェクトを振り返り、これから何ができるのかみんなで考えよう。



▲首里城に匹敵する規模だった浦添グスク

琉球王国の中心地であった首里。実は浦添と首里は歴史的に深いつながりがあります。王朝統一以前、浦添は沖繩本島中部一帯を治める舜天・英祖・察度ら三代の王たちが住む拠点でした。とくに察度は首里城の原型を整備し滞在したともいわれ、首里城には察度にまつわる伝承も残されています。後に首里に都が移されますが、首里の町づくりは浦添がモデルになったとされ、正殿の正式名称は「百浦添御殿」と呼ばれました。

また第二尚氏第7代の王・尚寧王は浦添出身で、首里に通じる街道を整備するなど、両地域は王国の中心地として栄えました。浦添と首里の関係は、京都と江戸のような関係といえるかもしれません。このような深いつながりがあることから、浦添市では「首里城応援プロジェクト」を立ち上げました。

浦添と首里



プロジェクトの主な取り組み

てだこウォーク参加者への募金の呼び掛け



てだこウォークの30キロコースに、首里城の一部が組み込まれていることもあり、メイン会場で支援の募金を呼びかけました。

桑の実ワインの売り上げで再建支援



2019年産の桑の実ワイン「Mure de Soleil(ミュール・ドゥ・ソレイユ)」の売上本数に応じて市が寄付を行いました。

美術館職員(学芸員)の専門的知識の協力

琉球漆器の被災状況確認のために、市美術館の職員2人を11月6日・7日に派遣しました。

今後の支援としては、市美術館が保有する琉球漆器修復に関する資料提供等を予定しています。



首里城理解のために資料展示および講座の開設



市立図書館に、首里城関連冊子を揃えた特設コーナーを設置しました。また、市内小学校で首里城に関する講演会を実施しました。

浦添市役所内に募金箱設置

首里城火災翌日の11月1日から浦添市役所1階に募金箱を設置しました。

市役所に来庁された多くの方が募金にご協力くださいました。また、長年ためてきた貯金箱を封も切らずにそのまま持参された市民や、その他県内外の多くの方から支援の申し出もいただきました。

お預かりしている寄付金については、漆芸専門美術館がある浦添市らしく、漆関係を中心に首里城復興支援に役立てていく予定です。



募金総額
5,290,470円
(令和2年6月16日現在)



▲贈呈式